

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2021~2022年度 No.267

3 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ III



強調月間：CS

ワイズメネット

今月の聖句

どのような時にも、“霊”に助けられて祈り、願い求め、すべての聖なる者たちのために、絶えず目を覚まして根気強く祈り続けなさい。

エフェソ6：18

3月第1例会（東日本大震災を覚えて）

日時：3月12日（土）午後2時～

場所：大田原市ふれあいの丘（大田原市福原）

内容：東日本大震災より、11年。大震災を覚えて、風揚げをしよう。全世界で心をつなげて繋がる！

コロナウイルスの感染拡大により、まん延防止等重点処置の延長により、例会は、中止とする。

同時間（3月12日午後2時）に、ZOOMにて、臨時の第2例会を開催する

内容は、ウクライナ支援緊急献金について、次期クラブ役員について、その他

2021~2022年度 主題

国際会長：(IP) サム・サンテエ(韓国)

「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長：(AP) 大野 勉(神戸ポート)

「100年を超えて変革しよう」

東日本区理事：(RD) 大久保 知宏(宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるのか？」

北東部長：南澤 一右(仙台青葉城)

「変化を楽しみながら新生北東部を創ろう！」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

2月例会データ（出席率：57.1%）

在籍者 7名

出席者 4名 ビジター 4名

3月 Happy Birthday

3/13 田村 修也メン

・4月第2例会（役員会）

日時：3月25日（金）午後4時30分から

場所：田村副会長宅・ZOOMにて開催

・4月第1例会（聖園那須老人ホームへの訪問）

日時：未定

場所：聖園那須老人ホームを訪問

内容：ご寄付をいただいたタオル等を持参し、お話を聞く

巻 頭 言

村田 榮

この頃思うこと

同じ敷地内に住む、義弟が急死して1年が過ぎた。彼がやってくれていたところの草刈りや、畑仕事を手伝ってくれていた助っ人がいなくなり、手が届かないことが多くありましたが何とかあった1年でした。そんな中9月に、蜂に刺されてアナフィラキシーの症状が出て、生まれて初めての3日間入院生活をしました。

2月12日で後期高齢者の保険証が送られてきた。終活と終の棲家をどうするかを考えなければと思う。

1月に入ってからコロナ（オミクロン株）の急拡大により、活動が制限されるようになりました。第6波です。那須町でも感染者が2月に入ってから拡大しております。クラスターではないようですが、中学校・小学校・保育園が増えてきたようです。いつどのように収まってくるのか見通しが立たないです。ウィズの活動も、対面ではなく、ZOOM を使ったの活動が中心となっています。一日も早く皆さんと顔を合わせて談笑ができることを願うばかりです。私たちも幸いに3回目のワクチン接種も終わりましたが、オミクロンの変異ウイルス（ステルスオミクロン）が出現しているようですね。無症状で、若い人に感染を広げているようです。WITH コロナを考えて、うつらない。うつさない。蜜にならないための行動を考えましょう。

ロシア軍によるウクライナへの侵攻は、目をふさぎたくないような悲惨な現実があります。子ども、女、お年寄り等の弱い者が虐げられております。ロシアにおける報道規制のことから、第二次大戦時における日本の報道規制のことを思い出しました。真実を伝えるのではなく、当局にとって都合の良いことだけを伝えていることより、ゆがめられていく心があると思いました。弱い人が犠牲になることなく、真の平和が早く戻ってくることを祈ります。

3月11日東日本大震災より11年目、今は亡きお義父たちと11年前に訪れた被災地をメネットと共に行ってきました。仙台に入り、閑上に行きました。11mのかさ上げされた整地に市街地ができていました。11年前の面影はほとんど残っていません。仙台空港の周辺から亘理、山元町と国道6号線を南下しました。至る所には、太陽光のパネルがありました。海を見たいと思いましたが、防潮堤のために近くでは、海を見ることができませんでした。田畑も整地され、トラクターが耕運しておりました。天候もよくのどかな風景と、11年前に見たあの風景を重りました。ここまで復興したのだと実感しました。福島に入り原発事故地に近づくにつれて、田畑の様子は荒れ果て、廃墟となった建物がだんだん増えてきました。「この先帰還困難地域です」の看板が出てきました。忙しく行き交う工事車両がふえ、ガードマンの方が立っておられました。汚染された土砂を入れた集積袋がたくさん置いてありました。26年前の阪神淡路大震災と比べると、福島の復興はまだまだと感しました。ロシア軍がウクライナの原子力発電所を攻撃する映像が目には浮かびました。放射能漏れが起きるとどうなるのだろうかと思いが立ちました。有形の復興はできても心の復興は何十年たってもできないでしょう。それでも前を向いて前進してほしいと願うばかりです。私たちのできることは少なくとも、真実を見ていくことの大切さを再確認した行程でした。次回は、南三陸方面を訪れるつもりです。

暖かくなると、さあ～活動開始!!

2月第1例会報告

報告者：平山 雄大担当主事

日時：2月17日（木）午後5時～

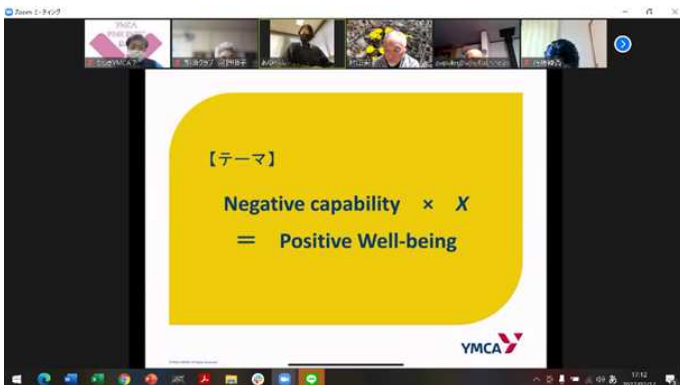
ZOOMによる例会

参加者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山担当主事、ゲスト：高橋亜由音（あゆ～ん）リーダー、阿久津知志（とちぎYMCA職員）、濱塚牧人（とちぎYMCA職員）、菅原侖（とちぎYMCA職員）、佐藤綾香（宇都宮大学インターン生）

コロナの感染拡大を受けて、対面ではなくオンラインでの開催となりました。今回は10月中旬より11月下旬の長期に渡って行われた、全国リーダー研修会について那須YMCAより参加した2名のリーダーの報告会を行いました。

とちぎYMCA全体としての報告会は1月中旬に行われましたが今回は参加したリーダー一人ひとりの感じたことや考えたことなどについて詳細な報告が行われました。全リー研で講演していただいた4名のゲストスピーカーの話の内容をスライドにまとめ、それに対して発表者の考えたことや感じたこと、グループで話し合ったことについて詳しく報告をしてくれました。

今回の全リー研は今までの研修会との違いが大きくあり、「YMCA・子どもたちのために何ができるか」にだけでなくこれから生きていく上で何が大切なのか、今を生きるとはどういうことかなど参加者自身のこれからの長い人生について考える機会となった。河野会長から「ある程度の年齢になった時にこの問いの答えが見えてくるような気がする」と感想を頂き、改めて今回の全リー研は答えがすぐに出ない、人生をかけて答えを出していく研修になったようでした。全体の報告会では伝えきれなかったところが今回の報告を通して、わかりやすく伝わったようでした。



3月第2例会（役員会）報告

日時：2月25日（金）午後4時30分～

場所：ZOOMにて開催

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山担当主事

協議事項

1. 3月第1例会について

3月12日（土）午後より、東日本大震災を覚えて、凧揚げを行う。場所については、大田原市ふれあいの丘（大田原市福原）参加者は、リーダー、スタディクラブ、その他。準備するものとして、村田がテーブルを持参。広報をどうするかを考える。

2. 4月第1例会について

聖園那須老人ホームを訪問。日程については、聖園那須老人ホームの行事の都合があるので未定。3月25日の役員会にて決定する。

3. 4月第2例会（役員会）について

3月25日（金）午後4時30分より、田村副会長宅、ZOOMで行う。

4. 4月例会は、聖園那須老司ホーム訪問となっている。タオル類をたくさん集めるようにしよう。ブリテンでも願います。

5. 卒業生リーダーは、男子2名、女子3名である。プレゼントは、田村副会長に願います。

3月（臨時役員会）報告

日時：3月12日（金）午後2時～

場所：ZOOMにて開催

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、藤生書記、平山担当主事、ウェリ張

第1例会が中止を受けて、臨時で役員会を開催。

1. ウクライナ緊急支援献金について

会計より20,000円を献金する。尚、とちぎYMCAからの献金依頼は、個人で行う。

2. 2022年～2023年度のクラブ役員について

今年度と同様とし、張さんに、ユース・交流を担当していただく。

3. 会員増強について

一人一人の会員の参加について話し合った。

4. 卒業リーダーへのプレゼントについて

記念品代8,940円であった。

5. シイタケ昆布の購入について

180個注文する。入荷予定は、3月27日（日）午前中。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第106回）

田村修也

日本鉄道の第二区線（東京—前橋間の途中から白河間）は、大宮で分岐して、栗橋・宇都宮への路線と、熊谷で分岐して、佐野・栃木宇都宮への路線が検討されていました。会社の計画と工事着手予定は大宮分岐の直線ルートが優勢でした。そこで、栃木県内の足利、上都賀、下都賀方面の発起人である木村半兵衛・市川安左衛門・安生順四郎・小峰慎太郎・横尾勝右衛門等は熊谷から足利・佐野・栃木・鹿沼・宇都宮の路線にするよう主張しました。矢板 武さんも「鉄道路線ハ浦和ヨリ栗橋ニ出テ宇都宮ヘ敷設スル實際便利ノ如クナレ共水害の患実ニ可恐事ナリ鉄道会社ノ爲トニ依リ考ふれば熊谷ヨリ足利栃木宇都宮トスルヲ最モ良トス所ハ其の経過スル土地物産多クシテ此便ヲ得ル時ハ幾倍ノ産出ヲ勿論タリ下野株主募集スルニ易・・・（建言書下書き）」という考えから、熊谷分岐・佐野・栃木・宇都宮路線を主張しました。ところがこれが認められず、県内発起人92名とともに明治15年（1882）6月までには理事を辞任することになったのでした。

日本鉄道の第一区線（上野・高崎）は明治17年（1884）5月に開通しました。第二区線は、明治15年（1885）5月に、日本鉄道株式会社は測量を工部卿に申請して次の年認可されたので、井上勝鉄道局長は路線視察として埼玉・栃木・福島・宮城の各県に出張しました。その視察報告で、東京・宇都宮間は土地が平坦で鉄道敷設は容易だが、宇都宮・白河間は山及び荒野で往来運搬が稀なため、また、松方デフレーション政策下の現状から、「現下ノ勢イハ未タ遽ニ鉄道ヲ要スベカラズモノト信ズ」と報告しました。この段階では、宇都宮以北は阿久津・氏家・佐久山・越堀・芦野・白坂・白河の、旧奥州街道沿いの路線を予定していました。

しかし、各宿場を中心に旅客と物資輸送を生業とする人たちの反対や、「火車」（機関車）による火災・振動・煙害による米作の減収・騒音等を懸念して反対がありました。当時の住民が新しい外来物に対して恐怖感をもったことは事実で、鉄道敷設に反対するのも当然であったかも知れません

矢板 武さんは、すでに設立理事委員は辞退していましたが、日本鉄道株式会社の株主となっていたことでもあったので、那須野が原の中央部に鉄道を通すことには積極的に動いたものと思われます。那須野が原の交通機関は著しく遅れていて、印南文作さんや矢板 武さんの運河構想も交通機関の一つと

考えられたのですが、運河構想が那須疏水開鑿という形に変わってからも、道路の開通、鉄道の敷設その他交通機関」の設置が重要視されていました。明治13年（1880）那須開墾社株主として那須野が原開拓に着手していた武さんは、明治14年（1881）日本鉄道株式会社の理事として、那須野が原への鉄道敷設は深い関心事であったことに違いありません。

その上当時政府高官等の華族農場が那須野が原に創設され、東京から近距離にあり鉄道が敷設されれば、市場条件にも恵まれることになるので、那須野が原への鉄道敷設はこれらの新華族にも望まれていました。そこで武さんたちは奥州街道の沿線は往時からすでに発展し繁栄しているので、鉄道は未開の地に施設されるべきであり、またそれによって、鉄道敷設に沿線住民の反対理由の障害も取り除かれるから、賢明であるとして那須野が原への鉄道誘致運動をおこしました。（以下次号へ）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

「じぶんではどうにもならないとかんじたときは…

…目の前にある大切なものをじっとみつめます」

まん延防止宣言下での、保護者の皆様のご理解・ご協力感谢您申し上げます。

本来であれば、今週は発表会でした。この時期は、クラスからも歌声が聞こえて、思わず口ずさんでいる自分に気づいたり、発表会でのメロディーが夢にまで出てきたりすることもあったことを思い出しました。子ども達や保護者の皆様には大変申し訳なく思います。

「音楽はけっして人から奪えない」ということばがあります。しかし、今回の文科省の感染防止マニュアルには、「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」、「児童生徒が長時間、近距離で対面形式となるグループワーク等」を控えるようにとの文言がありました。具体的には、歌も集団での遊びも控えるようにと読み取ることもできます。そして、学校教育法第一条に位置づけされている幼稚園では、これらについて実行は不可能と考えます。子どもは歌う存在であり、集団での遊びを通して学び合っているからで

す。

さて、この状況は、11年前の原発事故後に似ているところがあります。本園では、園庭の放射能除染までの3ヶ月間、教師達は室内のみでの保育を工夫しながらやり通しました。現在も教師達は、刻々と状況変化するなか、工夫をしながら保育の継続に取り組んでいます。

冒頭は、「ぼく モグラ キツネ 馬」(チャーリー・マックグー)からの引用です。この絵本には示唆に富んだことばが多くありますが、11年前の原発事故の時もコロナ禍の今も思うことは、困難と感じるとき、嬉嬉として遊んでいる子ども達をみていますと、不思議と力づけられ、支えているつもりが支えられていることに気づきます。彼(彼女)らの笑顔に希望を見いだすからです。そして、どんな状況にあっても、私たち大人は、子ども達の笑顔が消えないよう愛を注ぎましょう。

聖書には「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず」(コリント人への手紙Ⅱ4-8) とあります。

アジア学院たより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

カメルーン内戦

ロシアのウクライナ侵攻と、大量の難民が近隣諸国に流出している様子が毎日ニュースで流れます。いたたまれない気持ちでいる時に、アジア学院のガーナ人職員の妻であるクリスティさん(自身も2009年のアジア学院卒業生)が、先日西那須野教会の平和講演会で母国カメルーンで5年間に亘って続いている内戦について話をしてくれました。カメルーンには30名のアジア学院卒業生がいて、アフリカの国々の中ではアジア学院卒業生が多い、私たちにとってはなじみのある国です。その国が、特に私たちの卒業生たちの住んでいる地域が、長い間戦禍に苦しんでいることを私たちはとても悲しく思っています。日本のメディアではほとんど出ることがない世界の片隅の人の深い痛みを、今日は要約してお伝えします。

クリスティさんは5年前に勃発した内戦が、実は長い歴史の延長線上にあることを教えてくれました。ミャンマーも、ソ連とウクライナも、人々の争いの根は長い間人間の心の奥底に潜み、蓄積されてきた感情と深くつながっていることを改めて思いました。

だからこそ解決への道のりは陰しく複雑なのだと思います。

カメルーンは1884年から1916年までドイツの植民地下にありましたが、第一次世界大戦中、イギリスとフランスがドイツ軍に勝利し、イギリスが国土の20%地域を、フランスが残りの80%を支配しました。フランスが統治するカメルーンはフレンチ・カメルーン、イギリスが統治する部分はブリティッシュ・カメルーンと呼ばれ、両国による統治は1919年から1961年まで続きました。

フレンチ・カメルーンは1960年にフランスから完全に独立しました。そして1961年にイギリスはブリティッシュ・カメルーンに対し、フレンチ・カメルーンに加わることを条件に部分的な独立を与えました。ブリティッシュ・カメルーンはしぶしぶフレンチ・カメルーンと統合することを受け入れましたが、保証されるはずだった平等な権利は与えず、不平等で不公平な関係が今日まで続いています。英語を話す国民(ブリティッシュ・カメルーン人)の尊厳は政府によってさまざまな形で踏みにじられ、国の根幹である法律と教育についても、フレンチ・カメルーンはフランス式の彼らのシステムをブリティッシュ・カメルーン持ち込むことによって、システムを破壊しようとしているといえます。

このような状態から解放されるために、ブリティッシュ・カメルーンはフレンチ・カメルーンからの分離独立を望んでいますが(すでに「アンバゾニア」という新国名も新内閣も決定している)、石油、金、ゴム、木材などの国の天然資源の70%がブリティッシュ・カメルーン側にあるので、フレンチ・カメルーンは独立を許しません。フレンチ・カメルーンはブリティッシュ・カメルーンの地域中にある資源を搾取するだけして、開発事業は行いません。国内総生産の60%以上はブリティッシュ・カメルーンで生産されていると言われてはいますが、ブリティッシュ・カメルーン内のインフラや設備は貧しいままです。さらにブリティッシュ・カメルーン側は失業率が高い状態が続いています。学校を卒業しても、フレンチ・カメルーン人に比べて政府から雇用を得る機会が少ないからです。カメルーンでは名前を見ただけで出身地が判明できるので、ブリティッシュ・カメルーン人の就職は不利になります。

こういった不満が長年にわたってブリティッシュ・カメルーンの人々の心に蓄積し、2016年10月のある日、弁護士たちの平和的なデモが決行されました。英語圏の裁判所にフレンチ・カメルーン人判事の任命をやめるよう政府に抗議したのです。

教師たちもその抗議に参加し、英語圏の学校にフランス語圏の教師を送るのをやめるよう政府に訴えました。ところが政府はデモを制圧するために軍隊を送り込んできました。それがさらに多くのブリティッシュ・カメルーン人の抗議を引き起こし、海外在住のブリティッシュ・カメルーン人も加わって、抗議は拡大していきました。フレンチ・カメルーンの軍隊に比べ、ブリティッシュ・カメルーンの民兵組織は規模も技術も小さく未熟であるのに、奇跡的にブリティッシュ・カメルーンの人々はこれまで5年間も抵抗し続け、彼らは最後の一人が残るまで戦うことを決意しています。

2016年から現在まで(5年間で)、フレンチ・カメルーン軍がブリティッシュ・カメルーンの人々に対してによって行われた残虐行為は数えきれないほどです。30,000人以上の人(主に民間人)が殺され、今もフレンチ・カメルーンの軍隊はブリティッシュ・カメルーンの地域のいたるところに散在し、無差別に罪のない民間人を攻撃します。500以上の村が完全に焼き払われ、何百万人もの人々が家を失い国内難民となり、食べ物も水もないまま森の中に逃げ隠れています。ナイジェリアやガーナなどの近隣諸国に難民として逃れた人もいますが、正確な数字は分かっていません。難民としてアメリカに入ろうとしている人も大勢いますが、ビザがないためにキシコとの国境で足止めされています。船で脱出を図り、地中海の海で亡くなっている人もいます。クリスティさんの同級生のうち3人がその危険な旅の途中で亡くなったそうです。多くの保健施設が破壊され、学校も閉鎖されました。2019年のユニセフのレポートによると、85万人以上の子どもたちが学校に通えていません。組織的な強姦は日常茶飯事で、多くの若い女性や少女たちまでもが望まない妊娠をしています。仕事もなく、自分自身と子供の世話をしなければならぬ人生は、彼女たちには耐え難いものになっています。被害を受けた女性の中にはひどいトラウマから口がきけなくなってしまい、彼女たちの結末は沈黙の中で死ぬか自死することだと言います。被害の多くは表に出てくることがなく、実態の把握は困難であると言います。略奪や身代金要求のための誘拐も多発しています。保健システムは破壊寸前の状態にあり、コロナ・パンデミックの間に、事態はより深刻になりました。しかしそのような中で、ブリティッシュ・カメルーンの人々に援助を提供することは困難になっていると言います。ある国際NGO団体によれば、カメルーンでは約620万人が人道支援を必要としている

にも関わらず、政府は人道的組織が介入するのを邪魔し、ブリティッシュ・カメルーンの人々に海外からの援助の手が届きにくくするようにしています。5年間におよぶ内戦で、家族を失って学業を続けることができなくなった多くの若い男子が、正義を求めて戦いに参加しています。そのためにブリティッシュ・カメルーンの兵士はその数と強さを増強させています。彼らは、自分たちが求めている自由を得るまで戦うことを決意しています。

クリスティさんは長い話の最後に皆に問いました。武器での報復は、対立した人々の間に平和をもたらす最良の方法ではないはずなのに、なぜ私たちの社会では暴力が当たり前になってしまったのかと。そしてこのように結びました。

「教会として、神の子供として、わたしたちは生きとし生けるものに対して思いやりの心を持つ必要があります。すべての存在に対して理解をもって、誠意をもって接し、また共感をもって生きていきましょう。」平和はひとりひとりの心の中から生まれるという当たり前のことを、涙の証言の中からまた教えられました。

YMCAだより

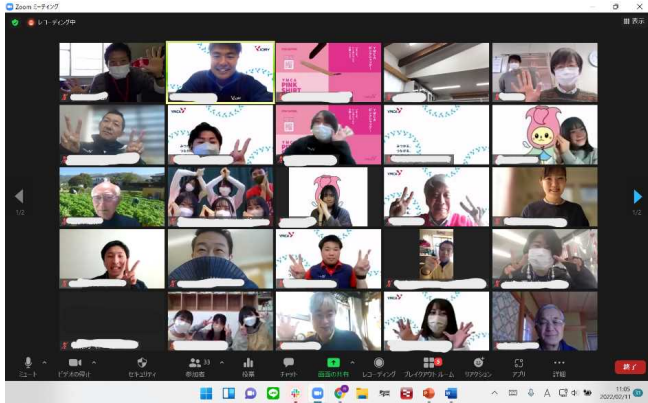
【2月23日(水) ピンクシャツデー2022】

社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、「傍観者にならないこと」がいじめられている人を救うことになると思います。今年も各拠点でピンクに染まりました。また、今年はユースで2月4日にZoomを用いてリーダーたちが集まり、講師を招いて「日常に潜む差別」について思いを出し合い一人ひとりが自分の思いそして「自分ではない誰かのために」考える機会となりました。学童では「子どもかいぎ」が行われました。「子どもかいぎ」では全国から20を超えるアフタースクールの拠点がオンライン上で繋がり、「一人ひとりをたいせつに」というテーマのもとに、いじめを自分ごとにする事によって、一人ひとりを大切にすること、他人から大切にされるという体験を持つことこのきっかけになったようでした。



【とちぎYMCA大会2021が開催されました！】

2022年2月11日（金）、「とちぎYMCA大会2021」が開催されました。このとちぎYMCA大会2021は会員総会のニュアンスを持ちます。今年度は新型コロナウイルス感染の状況を踏まえ、初の試みではありましたが完全オンライン形式（ZOOM）にて実施いたしました。参加者は100名を超える方々にご参加いただくことができました。今回はとちぎYMCA内6つの事業・拠点から8つのブレイクアウトルームを作り、参加者自身が自由に出入りのできる“出店”のような感覚でそれぞれの発表を聴いていただきました。チャット機能や、リアクションボタンを活用し、発表者と参加者がコミュニケーションをとる場面も見受けられました。それぞれの発表の中で社会の「いま」を見つめ、参加者の皆さまから貴重なご意見・ご感想を頂くことで世の中ととちぎYMCAが「よくなっていく」ための機会となりました。今回の大会の趣旨は会員総会のニュアンスを持ちながらも、会員の方だけでなくとちぎYMCAの各事業所につながる多くの方々に参加頂けたことで、多岐にわたる活動に触れていただけたと感じております。これからもとちぎYMCAは、皆さまとのつながりを大切に共に歩んでまいります。皆様のご参加、ご協力、応援ありがとうございました！



【2021年度スプリングプログラム 募集開始！！】

「仲間と喜び・感動する春！」を合言葉に2021年度とちぎYMCAスプリングプログラム申込が2月15日（火）13時からはじまりました！



子どもたちとリーダーが出会い、今後の人生の礎となるような感動を子どもたちに届けていきます。

【とちぎYMCA・那須YMCAの3月の予定】

- ・3/5（土）サタデークラブ@西那須野幼稚園（凧揚げ）中止
- ・3/12（土）サタデークラブ@西那須野幼稚園（凧揚げ）中止
- ・3/6（日）防災デー@宇都宮市青少年活動センター（トライ東）
- ・3/13（日）Yキッズ@那須どうぶつ王国
- ・3/15（火）さくらんぼ幼稚園卒園式
- ・3/16（水）西那須野幼稚園卒園式
- ・4/1（金）就業礼拝@宇都宮YMCA
- ・4/1（金）～2（土）新入職員研修@宇都宮YMCA・トライ東
- ・4/2（土）とちぎYMCA職員歓送迎会@宇都宮YMCA

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言



- ①吉田彩菜(みるく)
- ②国際医療福祉大学 保健医療学部 視機能療法学科
- ③福島県
- ④友達からの紹介
- ⑤10月Yキッズの芋掘り、いちばんメンバーとたくさんコミュニケーションを取って楽しく活動できたから
- ⑥国家資格を取得し、地元に戻って自分がお世話になった病院で働きたい
- ⑦この1年間YMCAで学んだことをこれからの活動にも生かし、成長していきたいです！

編集後記

- ・3月号ブリテン遅れましたが完成しました。
- ・那須クラブでは、聖園那須老人ホームの支援活動を行っております。ワイズの皆様にはタオルの支援活動へのご協力をお願いします。村田（090-9095-4035）まで連絡をお送りくださった方々に感謝申し上げます。